

「キャリア教育実践事例」

横浜平沼高等学校 一柳 浩一
横浜緑園高等学校 小島 昭彦
海老名高等学校 北澤 健

城郷高校高等学校 柴田 晴美
三浦初声高等学校 玉村 和彦
伊勢原高等学校 高木 伸

令和6年度キャリア教育部会の研究グループでは、この研究報告を見た方に参考になるよう、各校で実施しているキャリア教育に関する実践事例を公開し、検討することとした。記載形式としては、各校の実践事例の要項とその参考資料を配置している。紹介している実践事例は①横浜平沼高校：大学模擬授業、②城郷高校：社会人による進路選択体験談を聞く、③藤沢清流高校（横浜緑園小島が昨年度まで勤務しており、許可を得て紹介）：「21世紀型リーダーシップ」に基づく教育実践、④三浦初声高校：校外型分野別分科会、⑤海老名高校：受験意識の向上（模試の事前事後指導、進路ガイダンス、面談）、⑥伊勢原高校：インクルーシブ教育実践推進校における社会体験である。

内容に目を移すと、各校とも生徒の意識啓発に力を注いでいることが見て取れる。横浜平沼・海老名ではほとんどの生徒が大学に進学する関係から大学に関する知見を広げる取り組みや、模試や予備校講師を利用した取り組みを行っている。海老名の成果および課題にある一般選抜で受験する生徒が増加しているというのは、推薦での入学が多くなっている昨今において、学力と挑戦心を向上させていると感じる反面、教員への負担が大きいという面での兼ね合いが難しい事例である。藤沢清流・城郷では社会人からの逆算でキャリア教育を行っている。藤沢清流ではリーダーシップ教育をテーマとし、外部業者と連携し、学校目線からだけではなく、社会目線からのリーダーシップ観を生徒にもたせる取り組みであり、SDGsの視点を生徒にもたせる点も生徒が将来を考える一助となっている。城郷の取り組みは実際に働いている社会人の話を順繰りに聞くことができる形であり、どんな職業に就くか、働くことの魅力は

何かということをもっと真剣に考える機会を生徒に与える企画である。三浦初声では、校外の体育館・会議室・研修室を借りきった形で様々な進路の情報を得られる総合的な進路行事に取り組んでいる。学校紹介、業界紹介、公務員対策、一般常識講座など多岐にわたるブースがあり、生徒個々人が自分に必要な話を聞くチャンスとなっている。具体的な進路決定に繋がっているのも納得である。伊勢原はインクルーシブ教育実践推進校として行っている社会体験の事例について紹介した。特別支援学校で力を入れている実習は生徒の能力を伸ばし、進路を決定するために重要な取り組みである。他校で実習を行っている所もあるが、伊勢原では実習の時間が取れないため、夏季休業中などに行うインターンシップや仕事のまなび場などへの参加が重要である。指定が増えてきているインクルーシブ教育実践推進校でのキャリア教育の例として紹介した。

コロナウイルスにより社会全体が停滞した時を抜け、様々な活動が再開されるようになった。しかしそれとともに、AIの進化や、経済の長い不況、値上げ問題、価値観の変遷、少子高齢化による人手不足と生徒の進路に大きな影響をもたらす時代の流れが、大きくかつとても速いスピードで起きている。今年度の就職ではこれまでよりも好条件の求人が多数高校に寄せられ、高校を卒業してすぐに就職する生徒を、社会が必要としている実情を実感している。教育課程の新カリキュラムへの移行もあり、これからの進路支援では時代に合わせた柔軟かつ素早い対応が求められるに違いない。今回の報告をその対応や活動に生かしていただければ幸いである。

（文：高木 伸）